



東京学芸大学附属国際中等教育学校 2021年度「授業研究会」のご案内（第2次）

期 日	令和3（2021）年11月27日（土）13:00～16:00
会 場	オンライン（事前公開・Zoom）
後 援	東京都教育委員会 練馬区教育委員会
主 催	東京学芸大学附属国際中等教育学校

令和3(2021)年10月吉日

各 位

東京学芸大学附属国際中等教育学校長 荻野 勉

今回の研究主題である「学びの転移」は、新学習指導要領のキーワードである「深い学び」「カリキュラム・マネジメント」「社会に開かれた教育課程」などを結びつける十字路のような役割を果たす国際バカロレア(IB)の教育手法です。新型コロナウイルスや気候変動などの現代的課題の本質を理解し、それらの課題に対峙できる人を育てることを使命とする本校が、IBの手法を用いて、どのような教育実践を行い「令和の日本型学校教育」を構築しようとしているのかを、この機会にご覧いただければ幸いです。

申し込みからの流れ

右のQRコードまたは学校ホームページのお申込みフォームにご入力ください。※動画視聴の注意事項もあわせてご確認ください。

申し込み（ご参加）いただけるのは教育関係者のみです。

お申込みいただいた方のみ、メールでお送りするURLから授業動画の視聴が可能となります。

動画公開後、各自で授業動画を視聴してください。

動画公開のご連絡と共に事前アンケートをお送りしますので、動画視聴後に回答をお願いします。

事前にご質問いただいた内容をもとに協議を進行します。

事前送付するZOOMのURLにアクセスいただき、公開研究会に参加いただきます。

当日は12:40～より入室可能です。所属先とお名前を表示いただき、ビデオをオンにしてご参加ください。

協議会終了後、「事後アンケート」への回答のご協力をお願い致します。



研究部より

本校では隔年で公開研究会と授業研究会を交互に開催しています。今年度は授業研究会の年で、来年度の公開研究会における研究の方向性を模索しながら校内研究に取り組んでおります。研究主題を『**学びの転移**』を促す**概念・文脈の活用—国際バカロレア (IB) の教育システムを活かした教育実践—**とし、同一学年の異教科の教員で構成された研究グループにより授業研究を進めてきました。研究グループの授業協議会では、校内研究の主題にそった授業主題について議論を深めていきたいと考えております。また、教科による授業協議会も開催します。よろしくお願ひ致します。

学年・教科・科目	授業主題 授業者	助言者
協議会① 13:00～14:20 (12:40より zoom 入室開始)		
研究グループ 1年	概念型カリキュラムによる学際的単元の実践 —今、社会に求められているモノを創造する学び— 小林廉 (数学)・鮫島朋美 (理科)・飯田光一郎 (音楽)・ 久保達郎 (外国語)・徳初美 (外国語)・渡津光司 (技術家庭〔技術〕)	遠藤みゆき 関西学院大学 准教授
研究グループ 5年	概念「重要性」に重点を置く指導の試み —科学技術の利用が人間生活に与える影響— 来栖真梨枝 (地歴公民)・森本裕子 (理科)	
研究グループ D P	「TOKの種をまく」文脈化された指導による学びの転移 山根正博 (国語)・水津竜也 (地歴公民)・内野浩子 (数学)・ 嶽里永子 (美術)・ベンスミス (外国語)・小林万純 (外国語)・ 小松万姫 (外国語)	
協議会② 14:40～16:00 (14:20より zoom 入室開始)		
数 学 1年	「創造性」を概念レンズに据えた数学授業 —文字式による説明を内容とした統合的・発展的に考察する力の育成— 小林廉	西村圭一 東京学芸大学大学院 教授
理 科 6年	遺伝子組換え食品の社会的受容について —PCR 検知実験で探る消費と不安の実像— 伊藤穂波・齋藤淳一	
保健体育 2年	新しいスポーツを考える体育理論の授業 ～個人的文化的表現から見つめるルールとマナー～ 谷口善一	
研究グループ 6年	「文脈」の活用で「知の統合」を図る 杉本紀子 (国語)・山本勝治 (地歴公民)	

課題研究生徒発表 (グローバル部門・SSH部門) の動画も授業動画とともに公開します。是非ご視聴いただき、コメントやアドバイスを頂ければ幸いです。

お問い合わせ先

東京学芸大学附属国際中等教育学校 研究部 [電話] 03-5905-1326 [メール] kenkyu@tguiss.jp

[学校ホームページ] <https://www.iss.oizumi.u-gakugei.ac.jp> [所在] 〒178-0063 東京都練馬区東大泉 5-22-1